

患者が変われば医療が変わる 医療が変われば地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン総務部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第22回 地域医療フォーラムから学んだこと

先日、地元益田市で新しい形のフォーラムがあった。益田市出身の医師が7名、ブラリと壇上に並んだ。各地で大活躍されている先生方だ。医師不足で疲弊している地方都市の益田。この先生方が全員益田市に帰ってきてくれたら医療は万々歳だろう。

変化すれば街も医療も発展

登壇した医師の一人の呼びかけが、フォーラム開催につながった。グッドアイディアと感じた。タイトルは一般市民講座「本気で考える!!」今の益田の医療に必要なこと。フォーラムは2部構成で、第1部は7人の地元出身の医師が語る益田の未来のリレートーク。千葉、横浜、岡山、広島、沖縄、島根(出雲)から参加していた。地元益田高校出身なので、みなさん愛着はお持ちのようだ。

ではみなさんの力で何ができるかだ。ご本人たちは地元へ帰ってくる気は毛頭ない。それはそうだ。すでに地盤を造り、その地でリーダーとして活躍されているから抜けることは無理。話しの中で非常勤講師を活用すべきとの意見があった。一時的には解決するが、患者にとっては主治医が常に変わることは困る。ならば先生方の後輩を送りこんで頂く術は無いものだろうか。研修が充実していれば若手の医師は沢山集まってくる。千葉県鴨川市の亀田総合病院のような事例もあるが…。3万7000人の町に先生方があふれている。うらやましいかぎり。

第2部は益田の医療に思いを掛ける地元医療関係者のフリートーク。市長、保健所長、医師会理事、クリニックの先生、市民代表など。合わせて第1部に登壇された7名の先生を含め総勢15名ほど。風の人(よそを知る人)と土の人(地元に住む方々)とが連携してお互いの良きところを取り入れ、変化をすれば街は変わり、医療も発展すると発言されていた。

確かにその通りだ。出来ればの話だ。ところが現実には違う。私自身1ターンで益田に来た。21年間住んでいるが…。

私は、純粹な風の人。では地元の人と融合は出来たかというところではない。地元の方は変化を好まない。変化を好む私と変化を嫌う地元の方。これでは融合は難しい。

ではどうすればいいのだろうか。今回のフォーラムはいろんな宿題を市民に提供したと思う。そういう意味からは大成功と言える。「急がば回れ」。これが答えなのかもしれない。でも回りにすぎても解決策は生まれな